

これからの県立図書館運営の方向性の検討状況について

令和6年9月6日

課題

- 県立図書館を利用する県民は一部に限られており、広く県民全体に図書館サービスの有用性を周知していく必要がある。
- 県民の教育・文化の発展に寄与できるよう、県立図書館の持つ機能（資料・施設・専門職員）をより有効に活用し、新たな交流や価値の創造を支援していく必要がある。
- 県内のどこにいても、図書館サービスを十分に享受できるよう、全県域での図書館振興に向け、市町村図書館と役割を分担するとともに、市町村図書館への支援を充実する必要がある。
- 人口減少社会・超高齢社会においても、県立図書館機能の維持を図りながら、学び直しや生涯学習支援などを充実させたり、多様性や共生社会への志向の広がりに伴うニーズに配慮した新たな図書館サービスを展開したりする必要がある。
- デジタル技術の進展に即応したサービスの提供など、図書館運営全般においてデジタル化・情報化への対応を一層進める必要がある。
- 子ども読書活動推進センターとして、不読率の解消に向けて、子どもの一番身近な読書・学びの拠点である学校図書館への支援や子どもの読書環境の充実を進める必要がある。

見直すべき視点

- (1) 居場所や交流拠点としてのあり方
- (2) 市町村や学校図書館支援及び県内全域へのサービス
- (3) 調査・研究（レファレンス）機能の充実（探究・課題解決を含む）
- (4) デジタル化・情報化への対応（電子書籍を含む）
- (5) 資料収集・整備（選択と集中）
- (6) 子ども読書活動推進

これからの県立図書館像（2040年頃の目指すべき姿） 未来に「つなぐ・ひろく・いきる」図書館

- 県立図書館は、だれにとっても安心できる居場所となっています。県民は、集い交流する中で、人と人のつながりを深め、個人的あるいは社会的な新たな価値を創り出して、いきいきと未来をきりひらいています。
- 県立図書館は、地域の図書館とともに県域に広がる図書館ネットワークを構成し、いつでも、どこでも、だれにでもひらかれた図書館となっています。県民は、それぞれが必要とする資料や情報に繋がることができ、学習や教養、レクリエーション、文化活動に役立てています。
- 県立図書館は、機能の維持を図りながら、県民のニーズと時代の変化に対応し、進化し続けています。県民は、図書館の機能に上手につながり、充実した余暇時間を過ごしたり、その時々抱える課題を解決したりし、自らの可能性をひろげ、趣味や仕事、子育て、学びなど、生活のさまざまな場面で、自分らしく幸せに生きています。子どもたちは、読書通じて、心豊かに、たくましく、未来へ夢を描いています。

1 県民に開かれた図書館 だれもが 自由に いつでも

県立図書館は、すべての人が情報を得て社会とつながり、交流できる居場所となっています。誰もがライフステージやニーズに寄り添ったサービスを受けることができ、彩りのある豊かな毎日を送ることができています。

- 県民全体へのサービス
- デジタルシフト DX
- つながる・交流できる場 安心できる居場所
- 共創・社会参画の場

2 県域の中核となる図書館 つなぐ ひろがる ささえあう

県立図書館は、ヒト・モノ・コトの架け橋となって、県内外の図書館等をつないだネットワークを形成しています。誰もが、県内のどこにいても充実した図書館サービスを受けられ、情報へのアクセスが保障されています。

- 県内公共図書館の振興
- 図書館職員の資質能力の向上
- 図書館ネットワークの拡充・強化
- 非来館サービス

3 調査・研究センターとしての図書館 まなぶ みつける つくりだす

県立図書館は、豊富な資料と調べものの専門家である司書を通じて、身近な疑問や地域・社会の課題など、知りたい、解決したい、をお手伝いしています。誰もが、生涯学び続けられる環境の中で、自ら情報を集め活用する能力を磨き、新たな価値を創り出しています。

- 主題別部門制による調査・研究支援
- 身近な課題解決支援 暮らしの充実
- 社会（地域）の課題解決支援 地域活性化
- 創造と成果の発表の場を支援

4 子どもの読書と学びを支援する図書館 よむ はぐくむ 未来をえがく

県立図書館は、市町村図書館、学校図書館、民間団体等と連携を図りながら、子ども読書活動推進センターとしての役割を果たしています。子どもたちの誰もが、読書を通じて想像力と探究心を育み、夢を描くことで、自分の世界をより豊かに広げられるようになっています。

- 子どもが世界をひろげられる取組
- 探究・PBL（課題解決型学習）の支援
- 教育・保育関係者への支援 学校図書館への協力・支援
- 乳幼児の保護者や子どもにかかわる大人への支援

5 資料保存センターとしての図書館 のこす つたえる わかちあう

県立図書館は、郷土岡山の地域資料をはじめ、様々な資料を幅広く収集し、県民共有の知的財産として後世にわたり活用できるよう、利用しやすく整理・保存しています。誰もが、収集された資料を用いて、文化の継承や情報の発信に役立てることができています。

- 資料の収集・整理・保存
- 所蔵資料のデジタル化と利活用
- 岡山の魅力を伝える図書館
- 非所蔵資料・情報の利活用